

高住牛輪谷遺跡の発掘調査

公益財団法人鳥取県教育文化財団では、一般国道9号(鳥取西道路)の改築工事に先立ち、平成23年から高住牛輪谷遺跡(鳥取市高住)の発掘調査を行っています。

高住牛輪谷遺跡は湖山池南岸に流れ込む三山口川の東岸に位置し、川を挟んで西側丘陵裾部分には高住宮ノ谷遺跡があります。これまでの調査では、縄文時代から中世までの遺構・遺物が見つかっており、特に古墳時代終わり頃(約1,400年前)には、大規模な谷の造成を行っていたことが明らかとなっています。また、陶棺の破片や銅鈴、二つの掛口を持つ移動式カマドなど珍しい遺物が多数出土しています。

今年度は、丘陵裾の細い谷部分(1,286㎡)の調査を進めており、古墳時代終わり頃の造成が谷奥へと広がっていたことや、その部分に掘立柱建物や竪穴建物が複数建てられていたことがわかりました。また、谷の中央に設けられた溝には暗渠施設が存在し、団扇形木製品や刀形木製品などが出土したことから、集落内で祭祀が執り行われていたことがわかりました。

平成27年10月10日(土)
現地説明会資料
(公財)鳥取県教育文化財団



① 古墳時代の造成事業

谷を別の場所から持ってきた土砂で埋めて地盤改良をし、平坦な面を造っています。そこに竪穴建物や掘立柱建物を建てています。

造成土

③ 石組遺構

溝の兩岸に、長さ約60cm、幅約30cmの大型の石がきれいに置かれていました。また、溝の中には板材が柵状に配置されており、溝を流れる水を溜めるような施設だった可能性があります。

さらに、付近からは須恵器の小壺や多数のモモの種が見つかっており、何らかの祭祀が行われた可能性もあります。

④ 竪穴建物

造成土を掘り込んで構築されています。一部削平を受けていますが、一辺約6.8mのほぼ正方形です。山陰地方の古墳時代の竪穴建物としては大型の部類に入ります。

⑤ 掘立柱建物

造成土の上面で多くの柱穴と思われる穴(ピット)を確認しました。中でも調査区南西で確認したものは、約7.5m×約5mのやや大型の掘立柱建物に復元できます。竪穴建物と重複しており、竪穴建物が埋まった後に掘立柱建物が建てられたことがわかりました。

溝の中からの出土品



⑥ 団扇形木製品

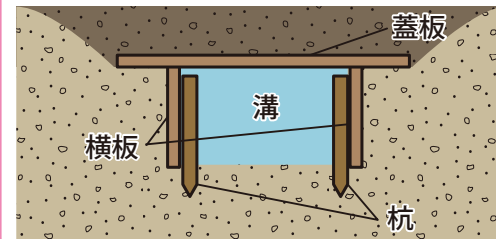
スコップのような形をした木製品です。半月状の部分にスリットがあり、ここに羽根や獣毛などをはさんで固定していたと考えられます。

こうしたものは権力者の持ち物で、儀礼や祭りなどの際に使われたものと考えられます。時代は1世紀ほど後ですが、奈良県高松塚古墳壁画にも、このような器物を持つ姿が描かれています(左図)。

② 暗渠

素掘りの溝の壁に杭で横板を固定し、その上を板で蓋をして、さらに土をのせる構造で、溝の一部分でのみ確認できました。

この部分はちょうど兩岸に建物跡があるので、橋のような役割をしていた可能性が考えられます。



【断面模式図】



⑦ 刀形木製品

細長い板の一端を斜めに切り、もう一端に切り込みを入れた木製品で、溝の中でまとまって出土しました。実用品ではなく、祭りなどで使用し、ここに廃棄されたものと考えられます。



たか ずみ みや の たに 高住宮ノ谷遺跡の発掘調査

高住宮ノ谷遺跡は、湖山池に流れ込む三山口川が造った平野をはさみ、高住牛輪谷遺跡から西に 500m ほどの丘陵裾にあり、小さな谷とその南北の丘陵部に広がっています。すぐ東側には高住平田遺跡が、西側丘陵上には高住宮ノ谷古墳群が存在します。



高住宮ノ谷遺跡は平成 26 年から発掘調査を行っています。昨年は 1～3 区の調査を行い、古墳時代後期～古代（約 1,500～1,300 年前）の掘立柱建物群、竪穴建物 2 棟や、古代から近世までの水田跡が見つかったほか、土坑や溝、多数の穴などが見つかりました。遺物では、古墳時代後期～中世を中心とする時期の土器や陶磁器、木製品のほか、土製支脚や移動式カマド、ふいご羽口なども見つかりました。また、中世の土坑から見つかった「こけら経」は、県内初の出土例です。なお、当遺跡は「高住銅鐸」の発見推定地の一つで、関連する遺構は発見されなかったものの、谷部で中世頃の堆積土から銅鐸を鳴らすときに内部に吊した「舌」に似た石製品が見つかりました。

今年は、昨年調査した 3 区の谷部下層と、隣接する 4 区の調査を 4 月から 7 月にかけて行いました。3 区では、丘陵裾部で縄文時代早期（約 8,500 年前）の縄文土器が出土し、この地で早くから人が活動していたことが分かりました。4 区では、中世頃の道路跡や水田を確認したほか、多くの穴を検出しました。穴の中には柱の一部が残っているものもあり、掘立柱建物もあったようです。北側では古墳時代後期頃の竪穴建物も見つかりました。このほか、古墳時代後期～中世の土器・土製品、木製品、金属製品など多数の遺物が出土しました。



3 区縄文土器出土状況

縄文土器（↑）

3 区の谷部は上流から流れて来た砂の層と有機物を多量に含む層が交互に堆積している状況が確認できました。

この谷の肩部分で、縄文時代早期の「押型文」と呼ばれる文様を持つ土器が見つかりました。破片が比較的まとまった状態で見つかった場所もあり、丘陵上方に何らかの遺構が存在した可能性もあります。これらの土器は、湖山池周辺では最古級となる貴重な発見です。



4 区（第 2 面、南から撮影）

道路跡（←）

ゆるやかにカーブした溝がほぼ並行に何本も見つかった遺構です。溝の底には楕円形の凹凸や動物の足跡が見つかったほか、硬く締まった土が入っているものもありました。

4 区は現在の市道の下に位置し、この市道が造られる前の道路の跡も見つっていますが、さらに古い道路跡が見つかったことから、古くから人々が往来する交通路であったことが分かりました。



道路跡から古墳時代後期の耳環が 2 点見つかりました。道路跡は中世頃と考えられるので、数百年の年代差があります。

竪穴建物（↓→）

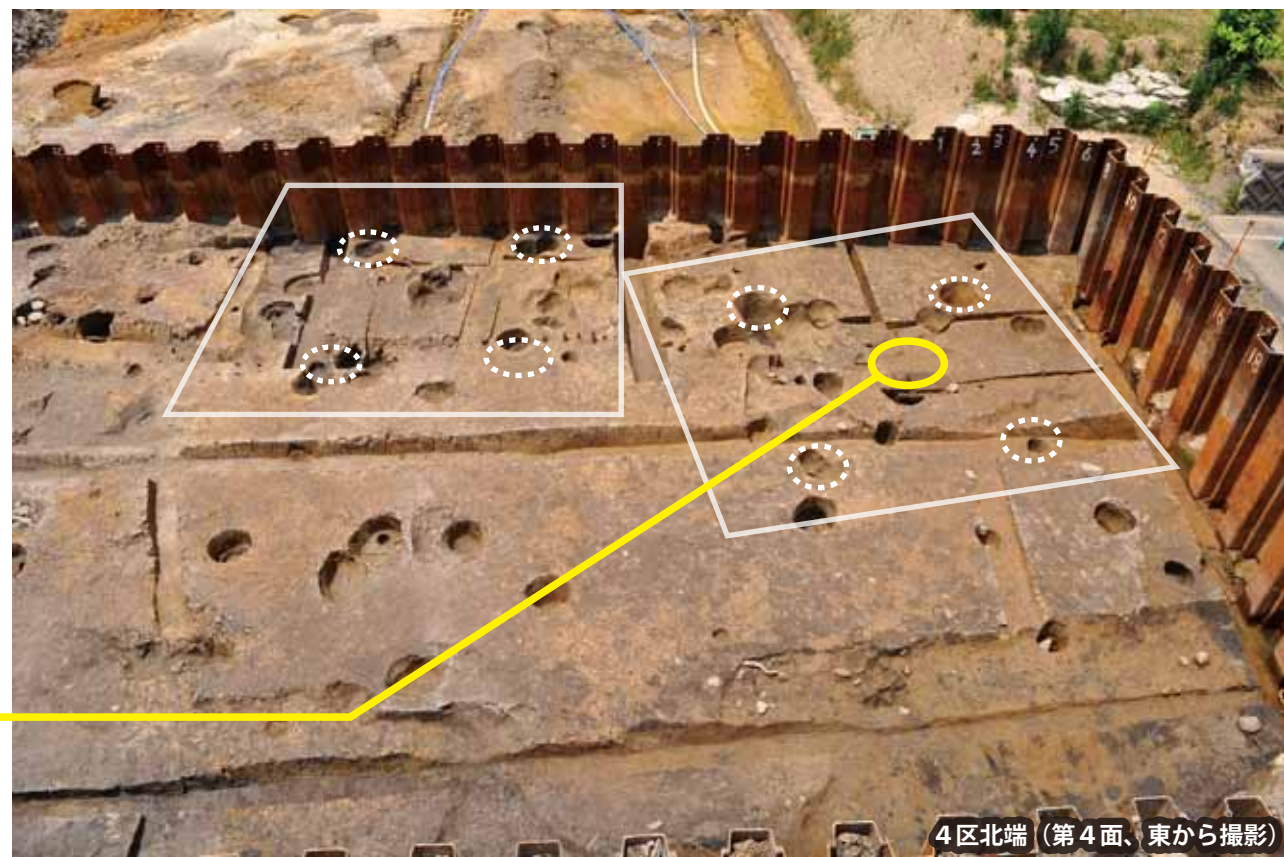
4 区の北側で見つかったもので、後世の削平などで掘り込みはほとんど失われていましたが、2 棟確認できました。どちらもほぼ同じ場所で数回建て替えが行われていたことが、重なり合う柱穴の状況から確認できました。

また、写真右側の建物の中央には炉と考えられる堅く焼けた部分がありました。

わずかに見つかった土器から、古墳時代後期頃のものと考えられます。



ろあと
炉跡



4 区北端（第 4 面、東から撮影）